No.230

林業ぐんま

目次

会長・環境森林部長挨拶……1
普及コーナー……2
・第四十九回群馬県児童生徒木工工作コンクールを開催しました
・おしらせ　第二十八回きのこ品評会
林政情報……3
・令和六年度群馬県建設工事表彰
林業労働力確保支援センターから……4
・研修会と就業相談を実施
各地のたより……5
（富　岡）富岡高校生の職業体験について
（渋　川）より良いコンテナ苗木生産を目指して
（西　部）木製受水槽研修会・見学会の開催
（藤　岡）森林資源の新たな利活用を学ぶ研修会in神流町
（桐　生）ウインチアシストシステム検証
（吾　妻）吾妻森林組合で技術力向上研修会（林業技能競技会）が開催されました
（利根沼田）消防と連携した林業労働災害応急訓練を実施
地域を担う人……10
飯塚　学さん　髙野辺政和さん
蓑輪　真大さん　鈴木　一生さん
赤澤　風音さん
森の談話室……12
・国産桐工芸の伝統と革新「桐匠根津」
群馬県森林・緑整備基金だより……13
・収穫期を迎える分収林
～分収林契約の期間満了と森林資源の循環利用～

新春
2025

「林業ぐんま」はホームページでもご覧になれます
https://gun-fukyu.jimdofree.com/

群馬県林業改良普及協会

群馬県林業改良普及協会長

狩野浩志

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃から本会の運営に格別なるご支援、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年、元旦に発生した地震により大きな被害を受けた能登半島では、復興途上にあった秋に、線状降水帯による豪雨が発生し、地震と水害の痛ましい二重災害となってしまいました。このような地震や気候変動による自然災害が激甚化・頻発化している近年、今後ますます国土強靭化対策として森林整備、治山対策を加速化しなければならないと痛切に感じております。

このような中、森林整備を推進し、温室効果ガスの削減や災害防止を図るため、平成31年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立しています。今後は、贈与税の配分を受けた市町村が、森林整備をはじめ人材育成・担い手の確保、木材利用、普及啓発等で、地域の実情に応じた取り組みを幅広く展開していくことが強く求められています。また、国では、社会問題と言える花粉症に対し、スギ人工林の伐採・植替え、スギ材の需要拡大等の花粉発生源対策を推進しています。利用期を迎える森林に対して多様なニーズにあわせた森林づくりが展開され、花粉の減少や安全で豊かな暮らしが実現されることを大いに期待しています。

県では、引き続き、森林資源の循環利用をより重視し、低コスト林業への転換や収益性の向上により林業の競争力を強化し、「自立した林業・木材産業の実現」を目指すとともに、林業経営を通じた森林整備により防災・減災に優れた公益的機能の高い森林の維持・増進を図る施策を推進しています。当会といたしましても、国や県の施策に協力し会員の皆様とともに積極的に行動したいと考えています。

さて、本年の干支であります「巳」は、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく縁起の良い年と言われているそうです。今年も森林・林業・木材産業にとりまして、縁起の良い年となりますことを心より願っております。

当会といたしましては、さらに全国の優れた取組み事例や最新の林業技術・生産システム等を皆様に紹介しながら森林・林業・木材産業の発展に、これまで以上に取り組んで参る所存です。

結びに、皆様のご健康と益々のご活躍、そして今年が皆様にとって良い年でありますことをご祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。

環境森林部長

前川尚子

新年明けましておめでとうございます。

群馬県林業改良普及協会の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

近年の地球温暖化による気候変動は、猛暑日の増加や災害の激甚化・頻発化など、企業活動や日常生活に多大な影響を及ぼしています。また、自然生態系の変化は世界各地で現れており、生物多様性の損失が懸念されています。

こうしたなか、国は、昨年3月「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」を策定・公表しました。これは、企業や消費者の行動を変えて自然を保全する経済に移行するビジョンと道筋を示したものです。ネイチャーポジティブの取組が企業にとって単なるコストアップではなく、自然資本に根ざした経済の新たな成長につながるチャンスであることを示し、実践を促すためのものです。

群馬県においても、ネイチャーポジティブ実現のため、県の施策にこの視点を加えていきたいと考えています。「生物多様性と経済活動が好循環する群馬県」の実現を目指し、企業の皆様とより一層、連携を進めて参ります。

森林・林業分野においては、「県産木材による自立分散型社会」を実現するため、「群馬県森林・林業基本計画（二〇二一―二〇三〇）」に掲げる「林業の競争力強化」、「森林の新たな価値の創出」、「森林の強靱化」の三つの基本方針のもと、様々な施策を積極的に展開しているところです。引き続き、県産木材の需要創出と生産体制構築を両輪とする林業改革を着実に進め、「関東一の林業県」を実現したいと考えています。

また、人命や財産を守るため、「災害レジリエンス№1」の実現を掲げ、災害発生のおそれがある山地災害危険地区の整備を重点的に行って参ります。

群馬県のきのこ産業につきましては、令和5年次の生しいたけの生産量が全国3位、まいたけが全国7位を誇るなど、全国でも上位となっています。中山間地域の重要な産業であることから、より一層、生産体制の構築に尽力して参ります。

本年も市町村や関係団体の皆様と連携し、群馬県の森林・林業・木材産業及びきのこ産業の発展のため全力で取り組んで参りますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。結びに、本年が幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

普及コーナー

第四十九回　群馬県児童生徒木工工作コンクールを開催しました

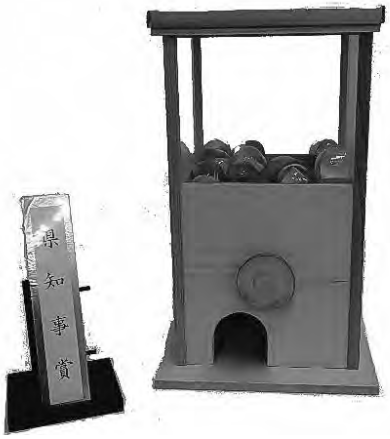
「ラスト・シュート」
吉岡町立明治小学校
木暮 龍樹さん（6年）

「渋特の森」
県立渋川特別支援学校
木工班（中学部1年、3年）

県では、県木材青年協会と共催し、小・中学校及び特別支援学校の小・中学部に在学する児童生徒に「木材の良さ（温かさ・加工しやすさ等）」を知ってもらうため、木工工作コンクールを開催しています。

今年度は、11月8日（金）～11月10日（日）まで昭和庁舎2階第1展示室にて作品展示を行い、延べ180人が来場されました。

出品された作品は、木の色や形、質感を活かし、工夫を凝らしながら、豊かな発想で実に見事な仕上がりでした。これらの作品から、木の持つ温もりや柔らかさ、優しさを感じることができる展示会になりました。



「お手伝いガチャ」
沼田市立薄根小学校
東 蓮桜さん（6年）

お知らせ

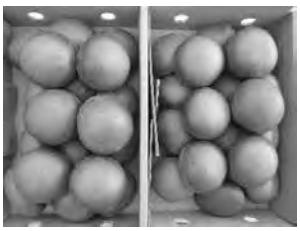
第二十八回きのこ品評会を開催します

今年度も2日間の日程で、初日に出品物の審査（2月4日）、2日目に表彰式・出品物の展示・きのこの一般販売・展示品の即売（2月5日）を行います。

即売では、厳選されたきのこをお買い求めいただけますので、是非足をお運びください。

日　程：令和7年2月4日（火）・5日（水）
場　所：群馬県庁1階　県民ホール（北側）
問合せ先：林業振興課きのこ振興係
TEL：027・226・3234

栽培きのこの展示



第二十七回きのこ品評会
金賞受賞しいたけ

林政情報

令和六年度　群馬県建設工事表彰

群馬県建設工事表彰は、県民の生活及び経済活動等の基盤となる社会資本整備を適切に推進するため、群馬県が発注した建設工事等を適正な工程管理と優れた施工技術によって、他の模範となる工事を完成させた建設業者及び主任技術者等を表彰するものです。これにより品質の高い工事を確保するとともに、建設業等の発展及び施工技術の向上に資することを目的として、毎年、知事表彰、部長表彰、所長等の表彰を行っています。

環境森林部発注工事に係る令和六年度の表彰工事は、令和五年度に完成した契約金額五百万円以上の対象工事二百二十五件の中から、品質管理・出来形・出来ばえ等の審査基準に基づき、厳正な審査が行われ、知事表彰二件が九月十三日、部長表彰十四件が十月二十二日、所長表彰六十九件が各発注事務所等の表彰式で受賞の栄誉に輝きました。

受賞された皆様に心よりお祝い申し上げますとともに、引き続き、安全第一で高品質の工事を完成していただくよう御協力をお願いします。

（森林保全課）

令和六年度 群馬県建設工事表彰（知事・部長）受賞者

知事表彰（環境森林部）２箇所 ２社

施工者	主任技術者	発注事務所	写真番号
石坂建設㈱　諸田光二	加藤房雄	利根沼田環境森林	①
㈱新井土木　新井正則	大塚孝二	桐生森林	②

環境森林部長表彰　14箇所　11社

施工者	主任技術者	発注事務所	写真番号
追川工業㈱　追川倪子	城田大介	西部環境森林	
㈱萩原工業　萩原哲也	萩原慶太	西部環境森林	
萩原建設㈱　萩原信夫	萩原達也	藤岡森林	
萩原建設㈱　萩原信夫	高橋道徳	藤岡森林	
東光建設㈱　竹内猶則	生方竹良	吾妻環境森林	
東光建設㈱　竹内猶則	島村　宏	吾妻環境森林	
㈱千島工務店　今泉弘行	木暮　茂	吾妻環境森林	
角屋工業㈱　飯島千明	綿貫浩次	利根沼田環境森林	
石坂建設㈱　諸田光二	茂野義則	利根沼田環境森林	
木内建設㈱　木内孝広	小林志央	利根沼田環境森林	
㈱金子建設　金子和利	諏訪有基	桐生森林	
㈱山藤組　山藤浩一	石冢勝美	桐生森林	
大川建設㈱　大川弘志	江口敏之	桐生森林	
大川建設㈱　大川弘志	勝山敬太	桐生森林	

② みどり市東町沢入（椀名条）地内

① 利根郡昭和村大字川額（清水沢）地内

林業労働力確保支援センターから

研修会と就業相談を実施

【林業雇用管理研修会】

群馬県森林・緑整備基金（林業労働力確保支援センター）では、厚生労働省事業で全国森林組合連合会が受託している「林業就業支援事業（雇用管理改善）」の再委託を受けております。

この事業の一環として、八月二十八日（水）群馬建設会館のホールで「林業雇用管理研修会」を開催しました。当日は、林業事業体を中心に約四〇人が出席し、雇用改善の手法を学びました。

最初に、「従業員の能力向上に向けた取り組み」と題し、林業の雇用管理上の問題点や、能力評価導入の必要性について全国林業改良普及協会の有馬隆継氏が講演しました。

講演では能力評価の目的が、給与・賞与の査定のみでなく、人材の育成・定着を目指すものであるとの説明がありました。また、経営理念、経営目標を定め、従業員全体で共有する必要性が示されました。

県内では、能力評価を取り入れる事業体が増えつつありますが、一層の取組が担い手の定着に必要といえます。

二点目は「農林大学校のカリキュラムと進路の傾向」と題し、群馬県立農林大学校森林コース長の清水昌福氏に講師をお願いしました。

農林大学校は幾多の変遷を経て、昭和五十八年度に開校した農林業関係の専修学校で、森林部門の学生は、農林業ビジネス学科森林コースで二年間学習します。

学生が職業を選択するポイントは、自分のやりたい仕事ができる会社、給料がよい会社、休日・休暇が多い会社が上位に来ているとの説明がありました。新卒者の採用を考えている事業体は、これらを参考にしつつ、自社の雇用改善を図る必要があります。

【就業相談】

群馬県森林・緑整備基金（林業労働力確保支援センター）は、林業への就業を望む県内外からの方々の相談窓口となり、随時就業相談を行っております。

講師の方々：左 清水昌福氏　右 有馬隆継氏

昨年度の相談者は以下のとおりです。

・相談者全数十七人
・男十六人、女一人
・県外四人、県内十三人
・十代一人、二十代一人、三十代五人、四十代六人、五十代三人、不明一人

今後とも、丁寧に相談に応じてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

なお、「ぐんま森林・林業就業ナビ【森ワーク】https://moriwork.jpにて、就業に関する話題や認定事業体の紹介などを行っております。是非ご覧ください。

会場の様子

富岡高校生の職業体験について

令和六年十一月五日（火）から七日（木）の三日間、富岡高校の一年生三人を職業体験実習生として当事務所で受け入れました。

初日の午前中は、事務所で植栽～下刈～間伐～主伐～製材と林業の一連の流れを学習し、その後、野外で林道の開設現場を見学しました。午後からは治山現場で法枠工、土留工、流路工を見学し、工事の必要性について学習しました。

二日目の午前中は、森林組合で組合の概要を学習し、現場で実際の伐木造材作業を見学しました。現場では、チェンソーで伐採する人、グラップルで集材する人、ハーベスターで玉切、枝払いをする人の合計三名で作業を行っていて、実習生は、少ない人数での効率的な作業に驚いていました。

伐木造材作業現場

また、実際にハーベスターの運転席に搭乗しヘッドやアーム、走行などの操作方法を学習しました。

午後は製材工場で丸太から皮を剥いで製材し、乾燥機にかける工程を見学しました。

製材工場見学

三日目の午前中は、原木しいたけの生産現場で、きのこ生産の一連の流れを学習、次にハウス内で浸水し、きのこ発生を待つ原木を見学しました。

原木しいたけ生産現場見学

その後、県有林に移動し木の直径を輪尺、樹高を測高器で計測後県有林巡視員が実際に伐採した木の年輪やメジャーで樹高を測定しました。

午後は、菌床きのこの生産現場を見学、実際におが粉から菌床を生産するところや、発生舎を見学しました。

菌床きのこ生産工場見学

実習生は初めて聞く内容が多く、十分に理解出来ていなかったかもしれませんが、説明者に積極的に質問し、各業界の問題点の洗い出しに努めていました。また、実習生は面識のない大人、知らない場所、長時間の車での移動等不慣れなことが多く、最初は緊張した様子でしたが、実習終了時には、林業に興味を持ち始めた生徒もおり、これからもさらに知識を深めてほしいと思いました。

今回の体験が実習生の皆さんのこれからの長い人生に良い影響があることを切に願うとともに、実習にご協力いただきました、森林組合、製材業者、きのこ生産業者、建設業者ほか関係者の皆様にこの場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

（富岡森林事務所通信員）

より良いコンテナ苗木生産を目指して

近年県内の山行き苗木に占めるコンテナ苗木の割合が増えており、苗木生産者の方々が、各々の立地や施設、設備に合わせて栽培技術を研究し、コンテナ苗木の供給に尽力されていることが伺われます。

渋川森林事務所管内には、苗木生産者が多く、県内コンテナ苗木生産技術の向上を目的として、「コンテナ苗木生産技術の充実に向けた視察研修」（令和6年度林業普及事業）を実施しました。参加者は、群馬県山林種苗緑化組合員、林業試験場研究員、渋川森林事務所普及員等13名でした。

視察については、栃木県山林種苗緑化樹共同組合（以下、栃木県苗組）に協力していただき、組合員の森戸良樹氏の苗圃（鹿沼市）を見学しました。

森戸氏(右から二人目)から選苗の説明を受ける参加者

栃木県は、全国で初めて県域でのコンテナ苗生産に切り替えた先進県です。本県でも大雪に見舞われた平成26年2月の豪雪で、栃木県北部と西部のスギ、ヒノキ人工林1500haで雪害が発生し、植栽する苗木150万本が急遽必要になって、短期間に大量に生産可能なコンテナ苗の生産に切替えています（当時の栃木県苗組の年生産量は40万本）。コンテナ苗木生産には早くから取り組んでおり、昨今のコンテナ苗木の評判が良いことから、今回の視察先にしました。

手前はコンテナ移植後に成長したコウヨウザンの苗（左が森戸氏）

なお、栃木県苗組には埼玉県からも視察要望があり、埼玉県山林種苗協同組合と日程調整して合同での視察になったので、埼玉県の苗木生産者と交流することも出来ました。

視察は、栃木県苗組から栃木県の山行苗木生産について説明を受け、その後、森戸氏の苗圃を見学、午後は栃木県林業センターに移動して、和田主任研究員から採種園の管理について説明を受け、その後、採取園を視察しました。

森戸氏の苗圃では、球果乾燥用ハウス、苗床、選苗作業、苗畑等を見学しながら、幼苗の遮光、根切り、選苗、育苗ベンチの設置高調整、かん水管理、病害虫防除のための薬剤の施用、農薬散布、冬越し、栽培スケジュール、培地や薬剤等の資材についてなど、様々な生産手法とそこに辿り着くまでの試行錯誤について伺いました。森戸氏には、消毒薬や施肥の種類、量等の質問にも、丁寧な回答をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

今回の視察を通じて各生産者からは、新しい知見や疑問点の解消、これまでの自分の栽培技術の確認等、有意義な視察研修になったと感想をいただきました。

（渋川森林事務所通信員）

木製受水槽研修会・見学会の開催

西部環境森林事務所では、大径木の利用拡大・ウッドチェンジの推進を目的に、十月四日（金）に高崎市吉井支所及び磯村産業（株）のご協力のもと日本木槽木管（株）を講師にお招きして研修会を開催しました。また、会場となった吉井支所では、二〇〇三年に木製受水槽が導入されており、現在も稼働していることから併せて見学会も行いました。

県内の人工林の多くは植栽から五〇年以上が経ち、立木の大径化が進んでいます。しかし、大径木は太いほど伐採や搬出が困難になり、費用が掛かり増しとなる上、加工可能な製材所が限られ、市場に出荷しても赤字になることが多いことから、大径木の伐採は敬遠され、有効活用されているとは言えない状況にあります。

木製受水槽の材料は、主にスギ大径木の心材部分から厚さ八センチ、幅一三センチの角材を使うので、地域の大径木の活用が期待されます。

研修会の様子

木製受水槽を見学

す。また、一般的な金属製のものより耐震性、安全性、断熱性が優れ、耐久年数も長いことなども説明されました。大径材の活用、二酸化炭素の長期固定への関心の高まりから全国の学校や公共施設だけでなく民間企業からの問い合わせも増えているそうです。

参加者からは「実物を見ながら、施工業者から直接説明・解説を受けられることで非常にわかりやすかった」、「今まで知らなかった大径木の使い方、地域材の活用方法を知ることが出来た」などのご意見をいただきました。今回の研修会を通して、「大径木をどう活用し、付加価値をつけていくか」、「ウッドチェンジをどう推進していくか」関係者の興味の高さを実感したので、引き続き大径木の活用やウッドチェンジの推進につながる情報提供を積極的に行っていくとともに、木製受水槽の導入時に課題となる加工材提供体制の構築にむけた業務連携の可能性を探っていきたいです。

（西部環境森林事務所通信員）

森林資源の新たな利活用を学ぶ研修会 in 神流町

近年の木材利用は、従来の建築物や家具等への利用の他に、これまで未利用であった林地残材や間伐材等の資源を活用する方法が各所で注目されています。

このような背景を踏まえ、令和六年九月十二日に、ぐんまフォレスター連絡会若手交流会として「森林資源の新たな利活用」をテーマに研修会が開催されました。

会場となった神流町は、総面積の約90％が森林であり、町産材である「神流杉」「神流檜」の活用とPRを進めています。神流町では特に「枝葉や端材まで余すところなく丁寧に使い切る」ことに力を入れており、町内の樹木の葉から抽出された精油を活用した商品開発など、新たな形の木材利用に積極的に取り組んでいます。今回、神流町を拠点に活動されている団体「あなたと森の物語」代表の山田美香さんと、神流町職員の加藤将さんのお二人を講師に迎え、神流町の林業の現状や、スギの葉から精油を抽出するまでの工程について学びました。

香りを楽しみながらの研修

研修ではまず、精油の材料となるフレッシュなスギの葉を研修生自ら採取し、3～4㎝に刻む作業を実施。初対面同士も多い中、気持ちの良い林内での共同作業に自然と会話の弾む様子が見られました。収穫後は、葉の収量計測、専用釜への投入、蒸留器へセットと、細かい工程を経て精油の抽出を開始。普段見ることのない作業工程を見学し、メディカルアロマ健康管理士である山田講師の丁寧な説明に、参加者全員が聞き入りました。

グループ討議の様子

また、精油抽出の間の時間を利用して研修生はグループ討議を実施しました。新たな森林資源の活用と背景となる地域の活性化などの視点でも検討を重ね、各班が個性ある活用アイデアを発表し、新しい切り口から林業を考える良いきっかけとなりました。

森林資源をどのように活かし情報発信する事ができるか、地域の声を聞きながら、支援・指導を続けていきます。

（藤岡森林事務所通信員）

ウインチアシストシステム検証

桐生森林事務所管内の代表的な林業地である、桐生市・みどり市は、県内有数の良材の出材地である一方、施業区域の大部分を急傾斜地が占めており、安全作業や効率性の向上に対する課題をかかえています。

本年度、当所普及チームでは、これらの現場課題の解決のため、ウインチアシストシステムを活用することによる管内急傾斜地における高性能林業機械の活用可能性について検討することを普及課題の一つとして設定していますが、これまで実機動作を見学する機会がありませんでした。

そのような中、とちぎスマート林業推進協議会から、スマート林業研修会（ウインチアシストシステムの検証）の案内をいただき、参加してきたため紹介します。

ウインチアシストシステム

研修会は、令和六年十一月十五日（金）栃木県矢板市内の山林で実施されました。当日は、栃木県内の森林組合を始め、関東森林管理局職員、栃木県職員、宇都宮大学の学生等、約７０名の大勢の林業関係者が集う中での開催となりました。

研修では、ウインチアシストシステムが、林業における21世紀の大きなイノベーションと世界的には言われていること、本機（テザー）は労働安全の確保と作業効率化を図るために開発したこと、設計においては日本林業の実状に合わせて現場に入るサイズ（0.45㎥）としたこと、自動追従型のシステム（作業機の登り下りにあわせて、自動感知でワイヤーの送り出し、巻き上げ）を組み、理論上一人作業を可能としたこと等、背景や機能についての説明がありました。

牽引された作業機械

続いて、本機械のメリットとして、作業道の作設省略、これまで機械作業が対応できなかったところでの作業（安全性の向上）があげられました。

実際の伐倒の試みでは、スムースな伐採がされている一方、運転席の角度がきつくなることもあり、オペレーターの操作技術が必要とされる状況も見受けられました。作業後、オペレーターからは『作業当初は怖かったが、進めるにつれ慣れてきた』との話も聞かれました。

当所管内で想定される傾斜での適応についてメーカー担当者に尋ねたところ、牽引自体が可能であっても、作業機由来の油圧機構の限界があり、どのような急傾斜でも対応が可能とはならないとのことでした。

本研修に参加し、直ちに管内の全現場に適用が可能ということではありませんでしたが、作業種や施業現場の設定の仕方等、事前に工夫を行うことにより、現状の改善に寄与する余地があるとの感想を得ました。引き続き検証を進め、管内林業の安全と効率の向上に資するよう努めていきます。

当日の研修受講の様子

（桐生森林事務所通信員）

吾妻森林組合で技術力向上研修会（林業技能競技会）が開催されました

吾妻森林組合では、「安全対策・作業方法・作業効率は三位一体として取組む」考え方のもと、全ての職員の技術向上や安全意識向上を目的とした「技術力向上研修会」を毎年実施しており、今年は2回目となる「林業技能競技会」を開催しました。

この技能競技会は、自分が狙った方向へ正確に倒す技術を競い合い、普段行っている安全動作から伐倒作業が決められた時間内に適切に行えるかを競うもので、林産課8名、森林整備課16名の職員が参加しました。

なお、審査員は県庁林業振興課担い手対策室の職員3名が行いました。

競技会は、先ず、くじ引きにより競技順番を決定し、競技者の服装、安全装具、チェーンソーの整備等についてチェックを行った後に、競技会場へ移動しました。

競技会場には、あらかじめ番号を付けた立木が用意され、競技者は自分の番号と同じ立木の伐倒を行います。用意された立木は、日頃の作業経験によるハンデをなくすため、林産課と森林整備課では難易度に差がつけられていました。

競技前に伐倒方向にフラッグを立て、伐倒後に、伐倒木と目標としたフラッグとの距離を測定し、審査員が作業時間の測定と伐倒作業手順が適切に行えたかの審査を行いました。

競技終了後には、経験豊富な2人の総括班長から講評が行われ、厳しくも愛情のあるアドバイスと指導があり、参加者の技術力向上に大いに役立っていると感じました。

競技の合間の職員同士の意見交換や、他の競技者の伐倒作業を直に見ることで、技術向上の糧になったと思います。

周りの皆に見られていることで普段の力が出せず、かかり木や時間超過で競技終了となってしまった出場者もいましたが、経験が浅くとも適切な安全動作や伐倒作業が行える職員もおり、改めて吾妻森林組合の現場技術の高さを再認識しました。

来年以降も伐倒競技会は実施予定とのことですので引き続き、職員の更なる技術力向上を図り、安全で効率的な事業を進めて欲しいと思います。

（吾妻環境森林事務所通信員）

消防と連携した林業労働災害応急訓練を実施

林業の労働災害は、他産業に比べ発生率が高いだけでなく、現場が急峻な山奥であったり携帯電話が使用できないなど、山間地特有の悪条件のため緊急時の対応が困難なものとなります。また、事故発生時には、安全かつ迅速に救助・救出できるかが重要であり、消防隊員が到着するまでの間、いかに迅速に現場作業員による応急処置が行われるかが被災者の生死を分けることもあります。

利根沼田森林組合では、令和六年十月七日に利根沼田広域中央消防署の指導のもと、現場で発生した事故等を想定した訓練を実施しました。内容は、チェーンソーでの切創を想定した止血や搬送方法、心肺停止した場合の蘇生方法などの実践訓練を実施しました。胸骨圧迫では、1分間に100回の早いテンポで強く絶え間なく圧迫する必要があり、実際に体験した組合職員からは体力が続かないとの声が上がり、複数人が効率よく連携することの重

胸骨圧迫を体験する様子

要性が確認されました。

また、訓練実施後の十一月七日と八日には、川場村内の素材生産現場において、災害時における救出や搬送方法の訓練のほか、森林組合の現場技術者が講師となり、消防隊員に対し、チェーンソーの取扱方法やメンテナンス方法、風倒木の伐木訓練が行われました。消防署ではチェーンソーの使い方やメンテナンスを学ぶ機会は少なく、隊員からは熱心に様々な質問が出され、学びを深める有意義な機会となりました。

今回の訓練は、労働災害に対する意識向上だけでなく、森林組合の技術を地域の安全に生かす素晴らしい取組となりました。引き続き、労働安全の確保と啓発に努めてきたいと思います。（利根沼田環境森林事務所通信員）

チェーンソー取扱説明の様子

救助訓練の様子

地域を担う人

四万林業協業組合
飯塚　学 さん

一　趣　味
　読　書

二　今後の抱負
安全第一でケガのないように、自分で出来る作業を増やしていきたいです。

四万林業協業組合
髙野辺　政和 さん

一　趣　味
　音楽鑑賞

二　今後の抱負
初心を忘れずに、緑の雇用で学んだことを活かしていきたいと思います。安全第一を心がけ、一日一日を気をつけたいとおもいます。

地域を担う人

四万林業協業組合

蓑輪　真大さん

一　趣　味

バスケットボール

二　今後の抱負

これからも、安全第一で効率の良い作業をして行きたいと思います。

南牧村森林組合

鈴木　一生さん

一　趣　味

読書・ゲーム

二　今後の抱負

ケガをしないように安全に作業したい。これからも伐倒や測量、仮払いなどの様々な仕事をし、将来ＦＬ・ＦＭになり、後輩達に自らが得た知識や経験を教えていきたいです。

下仁田町森林組合

赤澤　風音さん

一　趣　味

キャンプ・バイク

二　今後の抱負

後輩の手本になれる様な仕事を続けていきたい。こなせる仕事を増やしていく為に、今できることは全部やっていきたい。

森の談話室

国産桐工芸の伝統と革新「桐匠根津」

みなかみ町月夜野で桐を専門に取り扱う「桐匠根津」の４代目根津安臣さん（34）にお話を伺いました。

「桐匠根津」は、大正14年創業の老舗桐専門店で、元々新潟県十日町市で桐の伐採・販売業を営んでいましたが、安臣さんの曾祖父の安吉さんが旧月夜野町に移り住み桐専門店を始めました。２代目の祖父の栄安さんが本格的に桐下駄や桐箪笥などの桐工芸品製造を開始、３代目である父の公安さんからは桐箪笥のリフォームも始めました。桐箪笥をリフォームしてくれる業者は珍しく、全国から依頼が殺到しており、現在２年待ちだそうです。

３人兄弟の長男である安臣さんは当初、社会人を経験した後に30代で家業を継ごうと考えていたそうです。しかし、帰省して家業を手伝ったときに「継ぐなら今だ。」と本能的に感じ、大学卒業後すぐに祖父と父に弟子入りして桐工芸の技術を学んだそうです。その後、安臣さんの弟２人も家業を継ぎ、兄弟３人で受け継ぐことになりました。今では父が桐の製材、３兄弟で桐箪笥の製造・リフォームや桐箱の製造を分業しているそうです。安臣さんは主に桐箪笥の製造や桐工芸の特別注文を担当されており、家族で協力して営んでいます。

安臣さんは桐工芸を知らない若い世代にも関心を持ってもらえるような製品づくりにも力を入れています。例えば、桐を使ったスマホ用スピーカーは、自らスピーカーを購入、分解して音響の構造を研究し、50個以上の試作を重ねた末に完成した製品です。スピーカーからは聞き心地の良い音色が流れます。令和２年には、より高度な製品づくりにも挑戦するためにレーザー加工機を導入しようとクラウドファンディングで支援を募りました。反響は予想以上であり、１週間で目標金額に達し、最終的には当初の目標の２倍以上の支援金が集まりました。おかげで、当初導入を予定していたレーザー加工機に加えてメンテナンスに使用する設備も導入することができたそうです。これにより、今まで手作業で加工していた細かな部品をより効率的に生産することができ、さらに、手作業ではできなかった細かい加工ができるようになりました。加工機の導入により企業からノベルティに使用するコースター等の桐製品の発注も増えたと言います。

４代目　根津安臣さん

また現在は、材料も自前で調達しようと３年前からみなかみ町内の耕作放棄地を借りて、現在までにおよそ４００本の桐の苗木を自ら植え、手入れを加えながら順調に育てています。桐箪笥として使用できるようになるにはあと15年から20年かかるそうです。

「桐匠根津」は伝統を守りつつも、時代の変化に合せて新しい取組に家族一丸となって挑戦されている桐専門店でした。

桐を使用したスマホスピーカー

（利根沼田環境森林事務所通信員）

群馬県森林・緑整備基金だより

収穫期を迎える分収林

～分収林契約の期間満了と森林資源の循環利用～

分収林契約は、山林所有者による整備が進みがたい地域における造林を進めるため、所有者と、造林・育林に要する費用を負担する林業（造林）公社との間で交わした契約で、契約期間の満了時に立木売払いを行い、その売払い代金を分収割合により双方に分収することになっております。

利用間伐を始める前の塩原社営林（中之条町）

利用間伐を終えた塩原社営林（中之条町）

分収林の譲渡・利用

この分収林を群馬県森林・緑整備基金が、林業公社の解散により三四七箇所、一九九八ヘクタールを県の指導のもと、その管理、運営を引き継ぎ、11年が経過したところです。

これまでは利用期を迎えた分収林の路網整備と併せ搬出間伐を計画的に行ってきたところです。令和7年度から分収林契約の期間満了を迎えるとともに本格的な収穫期になりつつあり、成熟した森林の主伐に期待が持てるところでもあります。

また資源の循環利用や地球温暖化防止等に繋がるよう主伐後の再造林等にも対応したいと考えております。

低迷が続く木材価格や獣害被害の拡大等、課題も多いですが、造成した森林資源が活用され、林業・木材産業の活性化に繋がるよう努めて参りますので、皆様方の変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。

利用間伐を終えた塩原社営林（中之条町）

総 合 建 設 業

株式会社 山 藤 組

代表取締役　山藤　浩一

群馬県桐生市黒保根町水沼乙53　TEL 0277-96-2511

木炭・木酢液の生産・販売、楢材の買取をしています。

片品村木炭組合

組合長　須藤　賢一

〒378-0414　利根郡片品村東小川3325
TEL・FAX　0278-58-2596

株式会社 萩原工業

代表取締役　萩原哲也

〒379-0217　群馬県安中市松井田町土塩499
TEL (027)393－1480　FAX (027)393－1414
URL　http://hagimoku.co.jp/

【お詫びと訂正】

前号の 229号（令和６年10月1日発行）の10ページに掲載しております「地域を担う人」の記事で「楡沢森林生産企業組合 佐俣 誠さん」と「桐生広域森林組合 高谷宏志さん」 の写真が誤っておりました。つぎ のとおり訂正させていただくと共に、関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。

楡沢森林生産企業組合　　佐俣　誠さん

桐生広域森林組合　　高谷　宏志さん

群馬県リサイクル緑化協会会員　ISO 9001 / 14001 / 45001 認証

上毛緑産工業株式会社

代表取締役　髙橋 範行

◆ 本　社　〒370-3607 群馬県北群馬郡吉岡町小倉 827-87　TEL 0279-54-7723　FAX 0279-54-8603

◆ 仙台営業所　〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室 4-2-35　TEL/FAX 022-786-1406

◆ 上ノ原試験研究所　〒377-0000　群馬県渋川市上ノ原 3223-4　TEL/FAX 0279-24-3453

URL http://www.jouryoku.com/　E-Mail webmaster@jouryoku.com

森林土木事業を通じて、山村の安全・安心と山村振興に貢献

群馬県森林土木建設協会

会長　山藤 浩一

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7（群馬県公社総合ビル6階）

☎(027)280−6256　FAX(027)255−6265

E-mail:gun-sidokeki@tiara.ocn.ne.jp

～ 森と緑と笑顔のために ～

一般財団法人 群馬県森林・緑整備基金

〒370-3503　群馬県北群馬郡榛東村大字新井2935
群馬県林業試験場　別館内

TEL 027−386−5901　FAX 027−386−5902

森づくり、森林調査、林業用資材の販売等

一般財団法人 日本森林林業振興会

前橋支部

支部長　髙　橋　　東

〒３７１−００３５　前橋市岩神町４−１７−３

ＴＥＬ（０２７）２３１−２２７０　ＦＡＸ（０２７）２３３−０９９２

令和七年一月一日　発行

発行　群馬県林業改良普及協会
発行責任者　狩野 浩志
印刷　杉浦印刷株式会社

表紙の写真　令和６年度群馬県森林土木写真コンクール最優秀賞 受賞作品

題名「双璧の守り」　撮影場所　みどり市大間々町小平（小友）地内　撮影者　桐生森林事務所　佐久間翔世